



2020年4月7日

令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞について

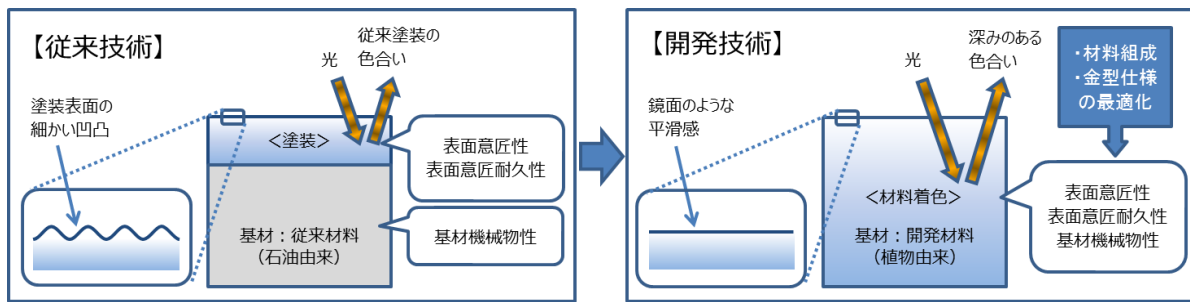
マツダ株式会社(以下、マツダ)の研究開発者が、バイオエンジニアリングプラスチック(以下、バイオエンブラ)の開発において「令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」の「科学技術賞(開発部門)」を受賞しました。「科学技術賞(開発部門)」は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に与えられるものであり、マツダの受賞は、平成30年度の新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 1.5」に続き、7回目です。

バイオエンブラは、植物由来原料を使用していることから石油資源使用量の削減やCO₂排出量の削減、さらに塗装工程廃止によるVOC¹の削減により、優れた環境性能に貢献できる材料です。

マツダでは、バイオエンブラの無塗装化技術を開発し、従来の塗装では実現できない高い質感(深みのある色合い、鏡面のような平滑感)を材料着色で実現するなど、高い意匠性を持つ自動車内外装部品としても使用できるように開発しました。2015年に「マツダ ロードスター」の内装意匠部品に初めて採用して以来、「MAZDA CX-30」のフロントグリルのような大型外装部品など、現在国内で販売しているすべての乗用車²の内装意匠部品や外装意匠部品に採用しています。



「MAZDA CX-30」



「バイオエンブラ技術のイメージ図(従来技術と開発技術の比較)」

業績名:「環境性と商品性と経済性を両立できるバイオエンブラの開発」

受賞者:一原 洋平(いちばら ようへい) マツダ株式会社装備開発部 主幹エンジニア

マツダは、クルマ本来の魅力である「走る喜び」によって、美しい「地球」と心豊かな「人」・「社会」を実現し、人の心を元気にすることにより、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

*1 揮発性有機化合物 (VOC:Volatile Organic Compounds)

*2 「MAZDA2」「MAZDA3」「MAZDA6」「MAZDA CX-3」「MAZDA CX-5」「MAZDA CX-8」「MAZDA CX-30」「MAZDA ROADSTER」(2020年4月7日現在)

以上

■ご参考

- マツダニュースリリース「マツダ、低環境負荷のバイオエンブラ新意匠2層成形技術を開発」
<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2018/201812/181205a.html>

マツダニュースリリース「マツダ、自動車外装部品にも使用できる無塗装で高質感のバイオエンジニアリングプラスチックを開発」

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2014/201412/141210a.html>